2026 慶應義塾大学（2/14 実施　商学部）地理概評

出題分析		
試験時間　60 分	**配点**　100 点	**大問数**　3 題
分量（昨年比較）〔減少　[同程度]　増加〕		**難易度変化**（昨年比較）〔[易化]　同程度　難化〕

【概評】

問題の分量は，マーク式問題が 65 問から 63 問に減少，短答記述問題が 7 問から 14 問に増加した。論述問題は昨年は 3 問出題があったが，本年は出題がみられなかった。難易度としては，一部で難問も見られたが，マーク式問題，短答記述問題ともに昨年よりも解きやすい問題が並び，論述問題が出題されなかったことから，易化したと考えられる。Ⅰと Ⅲは系統地理からの出題であった一方，地誌の大問はみられなかった。

設問別講評

問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
Ⅰ	工業	工業に関する問題である。問 1 の空所補充の問題は，概ね平易であった。(15)(16)は 65%程度であり，「1/2（2 分の 1)」も「3/4（4 分の 3)」も当てはまらないと考えられる。(29)(30)の「AFTA」は昨年も出題があった。(35)(36)の「RCEP」と(39)(40)の「AIIB」は 2024 年の慶大入試プレで扱った。問 2 から問 6 はいずれも平易な短答記述問題であり，多くの受験生が正答したと思われる。	やや易
Ⅱ	大阪の姉妹都市	大阪の姉妹都市についての問題である。問 1 の空所補充の問題は，概ね平易であった。(41)(42)のような五大湖に関する出題は頻出であるので，対策しておきたい。(73)(74)について，「経済技術開発区」は文章中の「1970 年代末に指定された」旨の記述を満たさず，当てはまらない。問 3 の「一国二制度」と問 5 の「リチウム」は本年の短答記述問題の中では比較的難しかったか。	やや易

設問別講評			
Ⅲ	大都市	大都市に関する問題である。問 1 の空所補充の問題は，概ね平易であった。(113)(114)の「マスツーリズム」，(115)(116)の「グリーンツーリズム」，(117)(118)の「エコツーリズム」はいずれも 2025 年の慶大入試プレで扱った。問 2 の鉄鉱石の産出量の上位 2 か国は頻出であるので，押さえておきたい。問 3 から問 5 はいずれも平易な短答語句問題であった。問 6 の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」は，近年訪日外国人旅行者数が増えていることから，これも押さえておきたい。	やや易

合格のための学習法
慶應義塾大学商学部では系統地理のテーマは様々であり，各分野を万遍なく押さえるとともに，様々な問題に対応できるように応用力を養っておきたい。その一方で地誌対策も怠らず，どのような地域が出題されても解答できるよう，世界各地の地誌対策を立てておくことが重要である。加えて，地理以外にも文化，経済，時事問題等の勉強もしておきたい。慶大地理は，標準的な問題でいかに得点を稼ぐかが合格への鍵となる。